

人・モノ・サービスの移動をスマートにする、新ビジネス企画募集。

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト2019

応募要項

平成30年12月

※____は9月公開要項からの変更部分です。
12月10日(月)から同17日(月)に〆切修正

コンテストWEBサイト

<https://www.sukamobi.com/idea/>



※横須賀が目指すまちづくりと、募集するビジネス企画は、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジのWEBサイトのコンテストのページをご覧ください。同ページから登録・応募できます。

【主催】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会

【運営・お問い合わせ】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト事務局
(株式会社三菱総合研究所内) 電話：03-6705-6015 (受付時間 平日 10:00~17:00)
メール：yokosuka-mobi@mri.co.jp

**ヨコスカ×スマートモビリティチャレンジ ビジネスアイデアコンテスト2019 応募要項【1】：
応募資格・募集期間・応募方法・審査方法・賞・等**

【応募資格】 個人、企業、団体、任意のグループのいずれでも可。

【募集期間】 2018年12月10日～17日(月) 応募〆切

【応募方法】 応募者は、ヨコスカ×スマートモビリティ ビジネスアイデアコンテスト2019WEBサイトに登録ください。

登録後、送付するビジネス企画をフォームに記入して応募ください。

※ 参考となる資料（A4サイズ・横型のPDFデータ5枚以内）を添付してください。

【審査方法】 学識経験者と主催者により審査します。

1次審査：応募されたビジネス企画を審査。10企画程度が1次審査通過の予定。

2次審査：2019年1月24日(木)に横須賀YRPで開催のイベント会場で企画発表、審査・表彰。

【賞】 ◆グランプリ：賞金30万円(1企画)

◆優秀賞：賞金5万円(2企画)

◆奨励賞：賞金1万円(3企画)

◆企業等提供特別賞（予定）

受賞企画は、ビジネス化支援（YRP賃料割引、共用設備やテストベッドの提供、連携形成支援など）が受けられます。

【その他】

・登録者・応募者の個人情報は、当コンテストの審査・表彰・発表の目的のみに使用し、他の目的には使用しません。

・応募者のビジネス企画の情報は、個人情報を伏せたうえで審査委員および事務局にて1次審査に使用します。

・1次審査の過程および不採択理由については開示いたしません。

・1次審査通過作品は、公開の2次審査に出席いただき、応募者を公表し、ビジネス企画を発表頂きます。

・受賞企画は受賞者とビジネス企画を発表し、主催者による受賞の広報にご協力いただきます。

・応募するビジネス企画が他者の権利を侵害することがないように確認ください。

アイデアの盗用その他不正があった応募や受賞については、審査対象外あるいは受賞取消とする場合があります。

・応募するビジネス企画に保護すべき知的財産が含まれている場合、必要な申請・登録等を行うことをおすすめします。

・応募されたビジネス企画書の著作権は応募者に帰属しますが、主催者はビジネス企画書を本コンテストに応募されたものとして公表できることにご了解いただけます。

・主催者は受賞者の賞金以外、応募者の応募・審査・表彰に係る経費を負担しません。2次審査参加の交通費はじめ、応募に必要な経費は応募者に負担いただけます。

・その他のご不明な点等は、事務局までお問合せ下さい。

・募集要項の内容については、予告なく変更する場合がございます。

コンテストWEBサイト

<https://www.sukamobi.com/idea/>



※横須賀が目指すまちづくりと、募集するビジネス企画は、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジのWEBサイトのコンテストのページでご覧ください。同ページから登録・応募できます。

【主催】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会

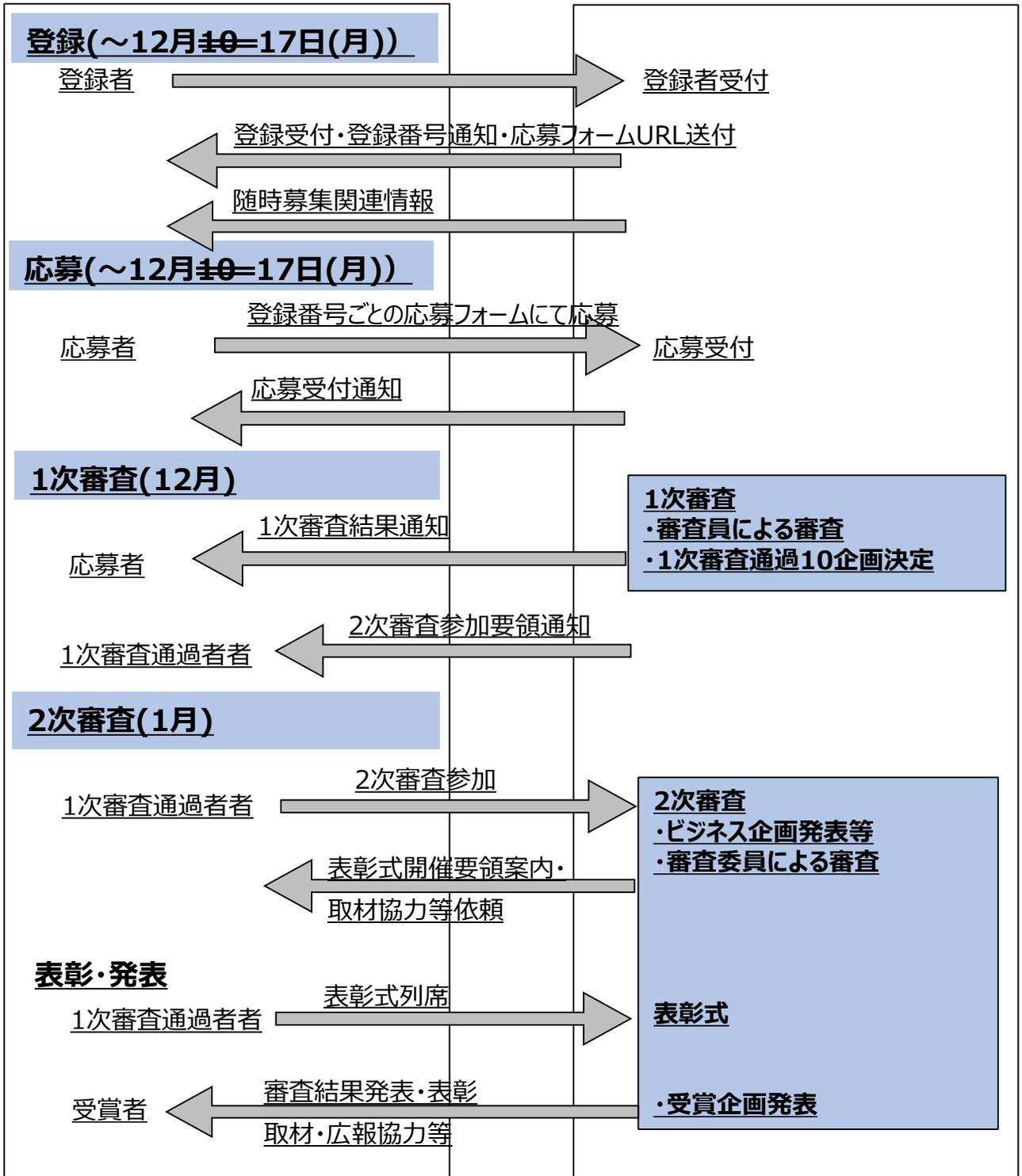
【運営・お問い合わせ】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト事務局
(株式会社三菱総合研究所内) 電話：03-6705-6015 (受付時間 平日 10：00～17:00)

メール：yokosuka-mobi@mri.co.jp

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト2019 募集要項【2】：
登録から受賞企画決定までのフロー

応募者・受賞者

主催者



**横須賀が目指す3つのまちづくりビジョンをスマートモビリティで実現することがテーマです。
テーマを選んで、応募ください。**

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジは、お年よりや障がいのある人、困っている人を助ける。住む人、訪れる人でにぎわい、まちと暮らしが元気になる。スマートモビリティの観点から、そういった「まちづくり」を実現するための取り組みです。

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジとともに、横須賀が目指す3つのまちづくりビジョンをスマートモビリティで実現し、産業を高度化する新たなビジネス企画を募集します。

テーマ①誰もひとりにさせないまち 「生活サポートビジネス企画」

横須賀の市域に平坦地が少なく、多くを占める山地、丘陵のうち比較的市街地に近い地域は宅地として利用されてきました。こうした地域で住民の高齢化が進み、安心して住み続けられるまちづくりやコミュニティの維持等が課題となっています。

このような移動が困難な場所でも、ストレスなく生活できる、高齢者が外出したくなるモビリティサービスに係るビジネス企画を募集します。

テーマ②新しい価値をつくるまち 「新たなまちの移動ビジネス企画」

人口の減少が続く横須賀市では、将来的に、まちの拠点を集中させ、その周りにコンパクトな居住地区が広がる新しいまちづくりの発想が必要とされています。

このようなコンパクトなまちにフィットする、スマートで使いやすく、安全でクリーンで維持コストが低い、効率的な移動や交通に関するビジネス企画を募集します。

テーマ③活力に溢れるまち 「まちに賑わいを生むビジネス企画」

横須賀には三浦半島の食や自然、風土や史跡に恵まれた環境があります。現在、市内全体を軍港資料館として捉えたルートミュージアムの構築を進めており、地域資源間の周遊ルートの創出に取り組んでいます。

このような横須賀の魅力をスマートな移動で引き出し、域内外の人が訪問・滞在したくなるビジネス企画を募集します。

テーマ①誰もひとりにさせないまち 「生活サポートビジネス企画」

移動が困難な場所でも、ストレスなく生活できる、高齢者が外出したくなるモビリティサービスに係るビジネス企画を募集します。

背景と課題

横須賀の地理条件

港の適地として発展した横須賀市中心部や、三浦半島は海辺まで山や丘が迫り、その間は谷となるため平地が少ない地形です。

住宅と生活環境

軍港として栄えた横須賀市中心部は、谷あいから山や丘の上まで住宅が建てられました。その後、郊外でも山や丘を造成し、宅地開発が行われました。そのため自動車の入れない狭い路地や階段や、坂道により交通の便が悪い生活環境が多くあります。

高齢化の課題

横須賀市の65歳以上の老年人口は、神奈川県内でも高い30.5%となっており、三浦市など三浦半島の自治体はさらに高くなっています。高齢者の運転による事故のリスクが増しており、歩行が困難、交通の便がないなどのため、外出や移動が困難な交通弱者、買い物弱者が増えています。外出ができない生活は不便なうえ、健康を害する危険性もあります。また、不便なため、誰も住まない空き家も増えています。

【参考資料】

- ・谷戸の状況と谷戸再生への取り組み(平成30年6月)
<http://www.yrp.co.jp/sumamobi/report/20180614/doc2-2-1.pdf>
- ・谷戸地域空き家等実態調査報告書(平成23年6月)
<http://www.yrp.co.jp/sumamobi/report/20180614/doc2-2-2.pdf>

ビジネス化のヒント

移動が困難な場所でも、ストレスなく生活できる、高齢者が外出したくなるモビリティサービスに係るビジネス企画を募集します。

横須賀市の生活や交通の課題を解決するビジネスは、高齢化が進む日本社会に先行し、世界的なモデルとなるものとして期待します。

◆歩行の支援や、移動手段の高度化

ラスト&ファーストワンマイルの移動を支援し、気軽な外出を可能とする車いす、電動カート等のスマートな利用が求められています。

◆歩行者の安全確保

歩道がないような狭い路地でも子供をはじめとした歩行者が安心して通行できるよう、安全性を確保する乗り物・道路が求められています。

◆移動弱者のための運搬手段や配送サービス

移動が困難な人や環境が、わざわざ買い物に行かなくても荷物を届けてくれる配送サービスの高度化が求められています。

◆移動弱者のための代行サービスや移動するサービス

代行サービスや、移動しなくとも密接にコミュニケーションがとれるサービスなど、ICTを活用して生活便利にすることが求められています。

テーマ②新しい価値をつくるまち「新たなまちの移動ビジネス企画」

コンパクトなまちにフィットする、スマートで使いやすく、安全でクリーンで維持コストが低い、効率的な移動や交通に関する ビジネス企画を募集します。

背景と課題

横須賀の人口減少

横須賀市の人口は、1990年の約43万3千人をピークに急速に減少、2018年2月には、41年ぶりに「40万人」を下回りました。将来的な人口予測は、2040年に30万人台前半に、2060年に22～23万人（最盛期の半数程度）になることが予測されています。

人口減少による影響の予測

このような人口減少は、将来、利用者の減少に伴うバスの便数の削減や路線の廃止、消費者の減少による商業施設の撤退、閉鎖を引き起こす可能性があるとして予測されています。

影響に対応したまちづくり

公共交通の利便性の低下や、商業施設の減少に対して、まちの機能を中心に集中させて、近隣に暮らすコンパクトなまちづくりが提案されています。

【参考資料】

・横須賀市の将来人口と課題の考察（平成30年6月）
<http://www.yrp.co.jp/sumamobi/report/20180627/doc3-1.pdf>

ビジネス化のヒント

コンパクトなまちにフィットする、スマートで使いやすく、安全でクリーンで維持コストが低い、効率的な移動や交通に関するビジネス企画を募集します。

持続的に成長可能なまちを支える移動ビジネスは、人口減少が進む日本社会に先行し、世界的なモデルとなるものとして期待します。

◆新しいまちの公共交通の形

まちの拠点間を効率的に運行・巡回し、低い維持コストでまちの移動を支える公共交通が求められています。

◆交流しながら利用するシェア型交通

地域や職場で交通手段を共有し、ICTを活用して便利にシェアし、交流しながら利用する仕組みが求められています。

◆新感覚の移動手段

自転車感覚でまち中で乗りこなせる気軽でクリーンなパーソナルモビリティなど新しいまちにフィットする移動手段が求められています。

◆移動手段の効果的な組み合わせ

様々な移動手段を提供するとともに、それらの効果的な組み合わせをICTを活用して支援し、マイカーに頼らない社会を実現するサービスが求められています。

テーマ③活かに溢れるまち 「まちに賑わいを生むビジネス企画」

横須賀市の魅力をスマートな移動で引き出し、域内外の人間が横須賀に訪問・滞在したくなるビジネス企画を募集します。

背景と課題

横須賀の観光資源

横須賀市街には記念艦三笠があり、その近くの乗船場から東京湾で唯一の自然島の猿島にわたることができます。観音崎に向かう途上の横須賀美術館や相模湾側の公園「ソレイユの丘」には多くの観光客が訪れています。

「観光立市よこすか」の取組

横須賀市は、現在の観光客数785万人、観光消費額386億円から2025年に1000万人、636億円にする観光立市推進アクションプランを進めています。市内全体を軍港資料館としてルートミュージアムの構築を進めており、地域資源間の周遊ルートづくりに取り組んでいます。

観光推進の課題

横須賀市街のある東京湾側に集まる観光客を、鉄道路線のない相模湾側まで周遊してもらうことが課題です。県内からに次いで米国からの観光客が多いのが特徴で、国際対応も課題の一つです。

【参考資料】

・横須賀市観光立市推進アクションプラン（平成29年2月）
<http://www.yrp.co.jp/sumamobi/report/20180712/doc4-1.pdf>

ビジネス化のヒント

横須賀市の魅力をスマートな移動で引き出し、域内外の人間が横須賀に訪問・滞在したくなるビジネス企画を募集します。

交流人口や関係人口の拡大はまちの賑わいを生み、地方創生を目指す日本社会に先行し、世界的なモデルとなるものとして期待します。

◆さまざまな交通で観光を楽しく

徒歩の街歩きやサイクリング、マイカーでの自動車交通や観光バス、バスや電車の公共交通、新しい観光交通まで、ICTで観光が楽しくなり、周遊や再訪を促す交通が求められています。

◆まちめぐり、食・体験・買い物・宿泊の情報サービス

位置や移動の情報を活用するICTでまちめぐりを楽しくし、食や体験、買い物や宿泊などの魅力の提供と利用を結ぶ情報サービスが求められています。

◆観光や交通の多言語化

観光のための交通や、まちめぐり、食や体験、買い物や宿泊などの情報を多言語化して、世界中の誰もが訪問したくなるサービスが求められています。

反社会的勢力の排除について

本コンテストに応募いただく方は、下記の反社会勢力の排除に確約いただくことを条件とします。

1. 応募者は、現在、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当しないこと、および次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ将来にわたっても該当しないことを確約します。
 - 1) 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - 2) 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - 3) 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
 - 4) 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - 5) 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
2. 応募者は、自らまたは第三者を利用して次の各号の1つにでも該当する行為を行わないことを確約します。
 - 1) 暴力的な要求行為
 - 2) 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - 3) 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - 4) 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて運営者の信用を毀損し、または運営者の業務を妨害する行為
 - 5) その他前号に準ずる行為
3. 応募者が、暴力団員等もしくは1各号のいずれかに該当し、もしくは2各号のいずれかに該当する行為をし、または1の規定にもとづき、表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合には、応募を受け付けることができません。また、応募後にこれらが判明した場合には審査対象外あるいは受賞取消とします。

ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト2019 募集要項【8】：
登録フォーム

【応募者登録】 (応募者は登録後に応募できます)

応募者名(<small>個人・チーム・団体・ 機関・企業名</small>)	
--	--

代表者名		所属(<small>団体・機関・ 企業等名</small>)	
部署・学科等		役職名・学年等	
電話番号		メールアドレス	

上記、登録は、コンテストWEBサイトにて受付

<https://www.sukamobi.com/idea/>



※横須賀が目指すまちづくりと、募集するビジネス企画は、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジのWEBサイトのコンテストのページをご覧ください。同ページから登録・応募できます。

【主催】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会

【運営・お問い合わせ】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト事務局

(株式会社三菱総合研究所内) 電話：03-6705-6015 (受付時間 平日 10:00~17:00)

メール：yokosuka-mobi@mri.co.jp

**ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト2019 募集要項【9】：
応募フォーム**

【応募ビジネス企画】 (本フォームにビジネス企画を記入し応募。

その他参考となる資料(A4サイズ・横型のPDFデータ5枚以内) を添付のこと)

登録NO	提案するビジネス企画名	30字以内	
ビジネス企画のテーマ(いずれか1つに☑)	<input checked="" type="checkbox"/> テーマ① 誰もひとりにさせないまち 「生活サポートビジネス企画」 <input type="checkbox"/> テーマ② 新たな価値をつくるまち 「新たなまちの移動ビジネス企画」 <input type="checkbox"/> テーマ③ 活力にあふれるまち 「まちに賑わいを生むビジネス企画」		
企画の主旨	300字以内		
提案する企画のユニークさ	技術のユニークさ 100字以内 ビジネスのユニークさ 100字以内		
アイデア実現の方法・プロセス	①必要な技術開発 40字以内 ②必要な資金 40字以内 ③必要な期間・手順 40字以内 ④その他 40字以内		
対象者に提供するモノ・サービス、価値やメリット	50字以内	モノ・サービス等を提供する主体の体制や方法	50字以内
ビジネス化以降の年間目標売上	20字以内	ビジネス化以降の年間ランニングコスト	20字以内
添付ファイル	A4サイズ・横型のPDFデータ5枚以内		

上記、応募は、コンテストWEBサイトにて受付
<https://www.sukamobi.com/idea/>



※横須賀が目指すまちづくりと、募集するビジネス企画は、ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジのWEBサイトのコンテストのページをご覧ください。同ページから登録・応募できます。

【主催】ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会

【運営・お問い合わせ】 **ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ ビジネスアイデアコンテスト事務局**
 (株式会社三菱総合研究所内) 電話：03-6705-6015 (受付時間 平日 10：00～17:00)
 メール：yokosuka-mobi@mri.co.jp

【応募ビジネス企画記入例】

登録 NO		提案する ビジネス企画名	交通の危険を伝える携帯電話アプリサービス	
ビジネス企画の テーマ(いずれか 1つに☑)	<input checked="" type="checkbox"/> テーマ① 誰もひとりにさせないまち 「生活サポートビジネス企画」 <input type="checkbox"/> テーマ② 新たな価値をつくるまち 「新たなまちの移動ビジネス企画」 <input type="checkbox"/> テーマ③ 活力にあふれるまち 「まちに賑わいを生むビジネス企画」			
企画の主旨	高齡化社会が進み、歩行者の安全性を強化していかなばならない。そのため道路横断の時などに、自動車が接近し、危険が迫る場合に、近距離の自動車と通信する携帯電話のアラームが作動し、身の危険を伝えるアプリサービスを開発。			
提案する企画の ユニークさ	技術のユニークさ 近距離にある自動車の発信を携帯で認識できるようにするアプリを開発。 自動車と携帯端末間の通信は他のサービスにも利用できる。 ビジネスのユニークさ 高齡者が安心してまちを歩くことができる。自動車の運転手も事故を避けることができる。			
アイデア実現の 方法・プロセス	①必要な技術開発 近距離にある自動車の発信を携帯で認識できるアプリのシステム開発 ②必要な資金 4億円程度 ③必要な期間・手順 システム開発(1年)、自動車メーカーの装備(1年)、アプリ発売(1年) ④その他 開発時から自動車メーカーの協力を得る			
対象者に提供する モノ・サービス、 価値やメリット	高齡者等歩行者はアプリを利用し、 事故を回避、ドライバーは発信機 付き自動車運転で事故を回避	ビジネスの主体の 体制や提供方法	自動車メーカーとの協力関係の下、 アプリ販売会社を設立。利用者が 利用料負担。高齡者は自治体等 が補助	
ビジネス化以降の 年間目標売上	2億円	ビジネス化以降の 年間ランニングコスト	1億円	
添付ファイル	A4サイズ・横型のPDFデータ5枚以内			